「不便」の価値を見つめ直す(3)

川上 浩司

12 こうして集めた事例を整理すると、「不便益」とは何かが浮かび上がってくる。まだ整理の途中の段階ではあるが、主には次のようなことが挙げられるだろう。

13 まず、物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、発見や出会いの機会が増える。次に、体力や知力、技術力の維持や向上を促す。自分の体や頭を使うことが、自然と体力・知力・技術力の低下を防ぎ、それらを向上させるからだ。また、「不便」であることは、人間の意欲を向上させる効果もある。自分で考えたり工夫したりする余地があるからこそ、取り組むときのモチベーションが高まり、成し遂げたときの達成感が大きくなるのだ。なお、一つの事例に複数の「不便益」が含まれることも少なくない。例えば、タクシーよりも徒歩のほうが発見や出会いの機会が増えるとともに、運動能力の低下を防ぐことにもなる。

14 これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものだ。「便利はよいこと」で「不便は悪いこと」という固定観念にとらわれ、ただ無批判に「便利」なほうばかりを選んでいては、「不便」の価値を見落としてしまう。さらに、「便利はよいこと」という考えの下、社会全体が「便利」だけを追求していけば、私たち一人一人は自分でどちらかを選ぶことすらできないまま、知らぬ間に、本来得られていた楽しさや喜びが失われたり、自分の能力を発揮する機会が奪われたりすることになるだろう。

15 誤解してほしくないのは、私は便利であることを否定し、昔の不便な生活に戻ろうと言っているわけでも、不便なことは全てすばらしいと考えているわけでもないということだ。「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが「不便益」の考え方なのである。（中略）

16 「不便益」は、物事のデザインだけでなく、日常生活にも生きる発想だ。あなたの日々の生活の中で、「不便で嫌だな。」「面倒くさいな。」と思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気づきや楽しみが隠れているかもしれない。これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ。あなたの周りには、どんな「不便益」があるだろうか。もう一度、生活を見つめ直してみよう。

（12～16は教科書本文における形式段落番号を表します）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中で述べられている「不便益」の説明となるように、（　）に当てはまる言葉を解答欄(かいとうらん)に合うようにそれぞれ書きぬきなさい。

・物事を達成するのにかかる時間や道のりが多くなる分、（ ① ）の機会が増える。
・自分の体や頭を使うので、体力や知力、技術力の（ ② ）を促す。
・自分で考え、工夫する余地があるので、取り組む（ ③ ）が高まり、成し遂げたときの（ ④ ）が大きくなるなど、人間の意欲を向上させる。

① □□□□□□
② □□□□□
③ □□□□□□□
④ □□□

(2) ――線部「固定観念」とあるが、ここではどのような考えのことか。適当なものを選びなさい。

ア 「不便益」は「不便」でないと得られないという考え。
イ 「便利」はよいこと、「不便」は悪いことという考え。
ウ 「便利」ばかり追求してはいけないという考え。

［　　］

(3) 筆者の主張に合うものを選びなさい。

ア 便利さを追求することをやめて昔の不便な生活に戻るほうが、かえってよい生活につながる。
イ 不便は悪いことだというのは誤った考えであり、不便なことに悪い面はないと気づくべきである。
ウ 「不便益」の発想は日常生活の発想とはかけ離(はな)れたものであり、デザインの分野で活用されるものである。
エ 「不便益」のようにこれまでの常識とは異なる視点をもつことで、世界をより多様に見ることができるようになる。

［　　］